

新規事業

ウクライナ危機緊急支援事業

— 戦時により弱い立場におかれる女性、子ども、高齢者の命と尊厳を守る —



活動地域: ウクライナ、ポーランド、ルーマニア、モルドバ、ジョージア
 事業期間: 2022年2月～2025年2月(3年間)
 事業規模: 当年度収入額18,046千円(総事業規模: 1.5億ドル)
 主な支援者: 個人、企業、支援組織等

245,770人

支援を受けたウクライナ難民・避難民の数
 (2022年5月10日現在)

183,190人

食糧支援を受けたウクライナ国内避難民の数
 (2022年5月末現在)

35団体

緊急支援の実施にあたり連携した
 現地パートナー団体の数



©Stefan Brand / CARE

課題

2022年2月24日、ロシアがウクライナへの軍事侵攻を開始。戦争の解決の糸口が見えないなか、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) によると、およそ3か月間で680万人の人々が国外に避難し、人口の約40%の1,570万人が支援を必要としました(2022年6月6日現在)。そして、この人道危機において、難民の90%は女性と子どもであり、国内避難民の63%もまた女性たちです。人身売買、搾取、そして妊産婦の死亡など、特に女性や子どもたちへのリスクが急激に高まっています。戦時においては、女性と子ども、そして高齢者は、より弱い立場におかれ、命と尊厳が脅かされます。

活動内容

ロシアによる軍事侵攻直後に、CAREはパートナー団体とともに、ウクライナ西部の都市リヴィウを拠点に、国内に取り残された人々への支援を開始。以後、ポーランド、ルーマニア、モルドバの国境周辺やジョージアにおいても、主にヨーロッパに拠点を置く複数のCARE事務所が連携して、国境を越えて祖国を逃れた人々の支援を実施しました。ポーランドやルーマニアとの国境では温かい食事や生活用品、避難所などを提供し、ウクライナ東部ではスロベニア赤十字と連携し、水や食糧などの配布活動を行いました。支援物資には、女性と女子のための衛生用品、離乳食、おむつも含まれます。また、国内に留まって活動を続けるボランティアに対して活動資金を提供するなど、日々変化するニーズにも柔軟に対応しました。さらに、避難した人々への心理的影響とトラウマを緩和するための心のケアにも注力し、精神科医、ソーシャルワーカー、医療従事者、ボランティアなどに、緊急心理社会的サポートとトラウマカウンセリングに関する研修を提供しました。

スタッフの声



©Roman Yeremenko / CARE

サラ・イスター
 CAREドイツ・オーストリア 緊急コミュニケーション担当

サラの仕事は、世界各地の被災地や紛争地を訪れ、被災者に聞き取り調査を行い、真に必要なとされている支援につなげることです。ウクライナ西部の避難所でも、最初は名前、年齢、関係、出身地といった一般的な質問から聞き取りを開始しますが、最後の質問がとても難しい場合があるといいます。インタビュー相手がマリウポリ、イルピン、またはブッチャの出身だというと、これらの場所に関するニュースの画像が頭の中でぐるぐる回るからです。「誰もが物語を抱えていて、それを聞くのはとても辛いですが、これが彼らの現実です」とサラは言います。そして、「私は、いつも何か良いことや、面白いことでインタビューを終えるようにしています。自分が、ウクライナ語がどれほど下手かを話したり、母親の膝の上の赤ちゃんに私の指を食わせてみたりします。相手のためだけでなく、私自身のためにも、恐怖、怒り、悲しみで終わるわけにはいかないからです」と、インタビューの秘訣を教えてくださいました。